



「第2回スキルアップ研修会」を実施しました

12月20日（水）、立命館大学産業社会学部・大学院応用人間科学研究科 教授 宮口幸治氏をお招きして「学習に必要な認知機能とは～認知機能トレーニングに学ぶ～」という演題でご講演をいただきました。保・幼・小、中、高等学校、特別支援学校の先生、その他関係機関の職員の方等、80名以上の方方にご参加いただきました。



講義では、長年、少年院で医務課

長として勤務されてきたご経験から気付かれた「特別な配慮が必要な子どもの特徴」と、「社会面・学習面・身体面への包括的支援」について解説していただきました。後半は、実際の認知機能強化トレーニング（コグトレ）を交えて、認知機能の弱さと不器用さに対応した支援について教えていただきました。限られた時間の中ではありましたが、「学習面」と「身体面」への具体的な支援として、①身体を知る（ボディイメージ・バランス感覚の向上）、②力加減を知る（筋力調整）、③動きを変える（身体的注意の向上）、④物をコントロールする（粗大運動の向上）、⑤指先を使う（微細運動の向上）、⑥動きを真似る（動作の記憶）、⑦動きを言葉で伝える（動作の言語化）の7つのトレーニングを教えていただきました。

学校や社会で困らないためには、「3方面（社会面・学習面・身体面）からの子どもの理解と支援」が重要であるということや、「変えられるのは教育」であると力強いメッセージをいただき、子どもたちの支援の在り方について新たな気付きと学びを得ることができました。



参加者の感想（一部抜粋）

- ワークショップ形式でとても楽しくわかりやすかったです。
- 楽しみながら頭や体を動かせるとてもいいトレーニングでした。
- 認知機能の弱さから伸び悩んでいる子どもたちがたくさんいることを知りました。
- 認知機能を改善することで、日常生活や社会生活が改善するということがわかりました。
- 地域支援センターの先生からコグトレを紹介していただき、少しずつクラスの集中力が上がってきていると感じている今日この頃です。今日学んだ身体面の認知トレーニングも取り組んでみたいです。
- 身体の調節、力の調節、心のブレーキは、訓練で自制していけることがわかりました。
- 生徒のできないことに目を向けて「できるようになること」「課題をクリアすること」に注目しがちですが、その根本に目を向けてトレーニングをするという発想に目からウロコでした。